

令和4年1月28日14時00分

資料配布 近畿地方整備局

福知山河川国道事務所

## ICTを活用した舗装工事現場の見学会を開催

国道27号綾部市下八田町の交差点改良工事において、ICTアスファルトフィニッシャーを活用した舗装工事の見学会を開催します。

福知山河川国道事務所は、ICT推進アドバイザーサポート事務所として、ICT施工を推進していますが、ICTアスファルトフィニッシャーによる施工は、当事務所で初めての試みです。

■開催日時: 令和4年2月1日 14時00分～15時00分

■開催場所: (事前説明) 京都府綾部市下八田町堂ノ下22(工事現場作業所)

: (現場見学) 京都府綾部市下八田町下沢(国道27号)

■開催内容: ・ICT舗装工の概要、舗装工事の施工方法、出来形管理

・ICTアスファルトフィニッシャー機械のデモ

■施工者: 株式会社 田中工務店

■参加者: 福知山河川国道事務所職員、京都府及び自治体職員などを予定

■取材について

・取材をご希望される方は、1月31日(月)15時までに、電子メール又はFAX(別紙①: 取材登録書)にてお申し込みの上、事前説明の開催場所(別紙②参照)へ直接お越してください。

・取材登録書に記載している「注意事項」をご確認ください。

●電子メールでの申し込み

・メール送信先: 福知山河川国道事務所 道路管理課 保全企画係 宛

・メールアドレス: kkr-fukuchi-otayori@mlit.go.jp

・件名: ICT舗装現場見学会 取材希望

・メール本文: ①お名前(ふりがな)、②ご所属(会社名)、③ご連絡先(電話番号・メールアドレス)

●FAXでの申し込み

・(別紙①: 取材登録書)に必要事項を記載し、ご送信下さい。

<取扱い>

<配布場所>

京都府政記者室、綾部新聞記者クラブ、舞鶴記者会、福知山市政記者クラブ

<問合せ先>

国土交通省 近畿地方整備局 福知山河川国道事務所

副所長 藤田 晶久(内線205)

総括保全対策官 森口 正一(内線430)

電話 0773-22-5104(代表)

# I C T 舗装現場見学会

## 取材登録書

### ◆電子メールでの申し込み

件名：I C T 舗装現場見学会 取材希望

メール本文：①お名前（ふりがな）、②ご所属（会社名）、③ご連絡先（電話番号・メールアドレス）

メール送信先：福知山河川国道事務所 道路管理課 保全企画係 宛

メールアドレス：kkf-fukuchi-otayori@mlit.go.jp

### ◆FAX での申し込み

※送り状は不要ですので、本紙のみをそのまま FAX してください。

なお、お手数ですが、FAX 送信後、受信確認のため、以下の【受信確認先】までご連絡ください。

ふりがな ※必須	
お名前 ※必須	
ご所属（会社名） ※必須	
ご連絡先（TEL） ※必須	
ご連絡先（mail アドレス） ※任意	

Fax 送信及び受信確認先：福知山河川国道事務所 道路管理課保全企画係 宛

FAX番号：0773-23-9566

TEL:0773-22-5104(代表)

※取材を希望される方は、次ページの【取材にあたっての注意事項】を必ずお読みください。

【取材にあたっての注意事項】

取材にあたっては、以下の注意事項をご確認いただき、遵守にご協力ください。

- 当日、記者およびカメラマンの方は、自社の腕章を着用いただきますようお願い致します。
- 会場内は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用にご協力ください。
- 当日受付にて、検温及び手指の消毒を行いますのでご協力をお願い致します。
- 取材に必要な電源は各社各自で準備ください。
- 会場での飲食及び喫煙はご遠慮ください。
- 手荷物・貴重品等は各自にて管理をお願いします。
- 事故防止の観点から、取材にあたっては節度のある行動をお願い致します。
- 現場見学会の円滑な進行のため、係員の誘導、指示に従ってください。
- 説明は14時から実施しますが、13時より入場可能です。
- 説明時の携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。

以上

# ICT舗装施工 現場見学会について

## ■現場見学会実施箇所について

(事前説明) 京都府綾部市下八田町堂ノ下22(工事現場作業所)

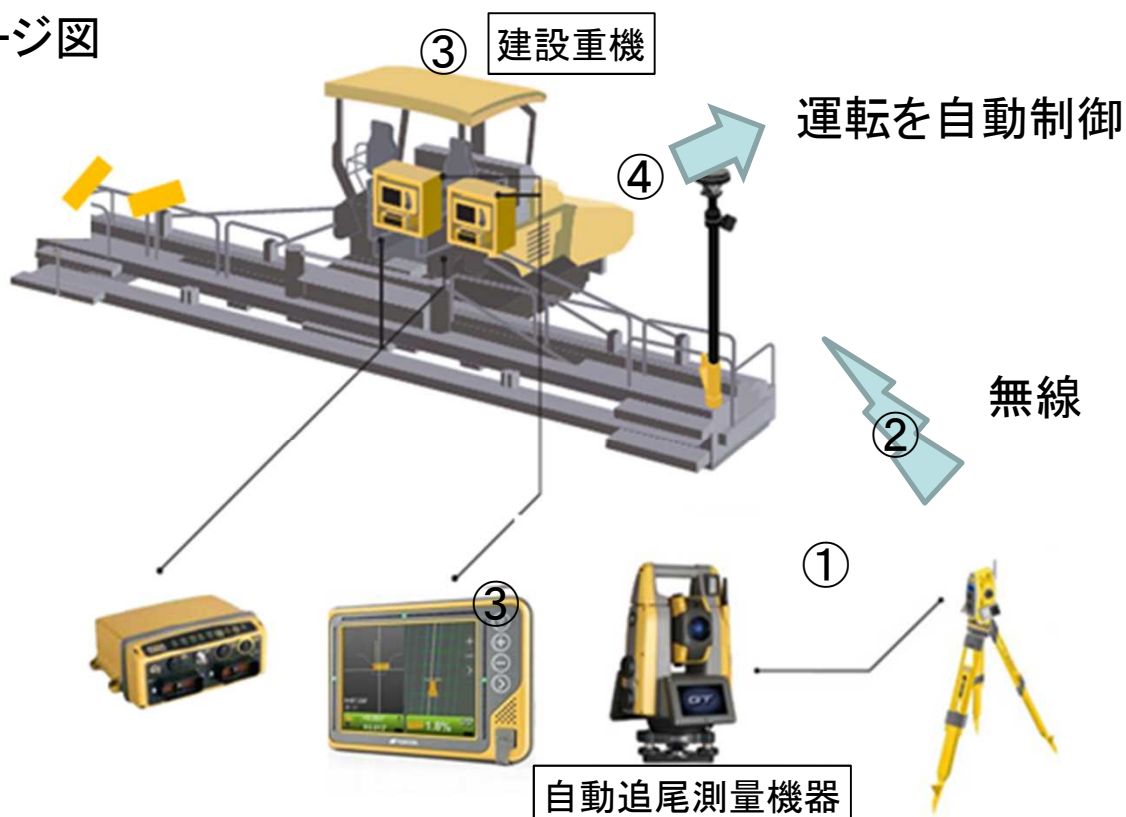
(現場見学) 京都府綾部市下八田町下沢(国道27号)



# ICT舗装施工とは

- これまでの施工では、建設重機を作業員が操作し、舗装の厚みや進行方向などを変更していました。
- 今回実施するICT舗装施工では、3次元データを元に建設重機を自動制御で運転します。
- 3次元データを活用する事により、高精度な仕上がり、出来上がりの計測の省略が可能となり、作業の効率化と生産性向上が期待されます。

## イメージ図



## 使用する建設重機



- ①重機位置を自動追尾測量機器で計測
- ②位置情報無線で送信
- ③設計情報と照らし合わせ差分計算
- ④重機を制御